

## 引用・参考文献

### <第1章>

- 菱沼典子(2003).研究による実証が、説明できる看護を築く.日本看護科学学会誌,23(1),67-73.
- 池田百合江,小西芳枝,加藤寛文(2004).精神科療養病棟における個人衛生に関するセルフケアを向上させるための取り組み 温泉入浴剤を用いた入浴への働きかけと効果.日本看護学会論文集 精神看護,35,229-231.
- 縄秀志(2006).看護実践における“Comfort”の概念分析.聖路加看護学会誌,10(1),11-22.
- 縄秀志 (2008).看護現象における「気持ちいい」は概念化が可能か?. 菱沼典子編集. EB NURSING,8(4),20-26.
- 小倉永子,宗像倫子,鈴木桜子(2003).軽減しないしびれへの看護介入を考える ギラン・バレー症候群患者の看護満足度調査から.聖隷浜松病院医学雑誌,3(2),25-27.
- 岡浦真心子,岡崎厚子(2006).うつ状態回復期患者における臨床動作法の効果.日本看護学会論文集 精神看護,37,9-11.
- 佐山恵子,寺口和歌子,今淳子,他(2005).カラー装着している患者のスキンケア爽快感を得るために.黒石病院医誌,11(1),23-25.
- 島田多佳子(2004).快・不快と皮膚深部温との関連.日本看護技術学会誌,3(2),5-12.
- S.Kay Toombs(1992).病の意味—看護と患者理解のための現象学.永見訳(2001).日本看護協会出版会,178-179.
- 曾田陽子,小松万喜子,水野美香,他(2006).基礎看護学実習において実施した看護技術に対する学生の達成感とその理由.愛知県立看護大学紀要,12,67-74.
- 矢野理香,大橋久美子,菱沼典子(2008).「あー気持ちいい」を引き出す看護現象—4事例を通して. 菱沼典子編集. EB NURSING,8(4),12-18.

### <第2章>

- 天野清子,向井寛美(2002).集団での足浴が患者と看護者にもたらした変化の検討 快いかかわりを関係作りのきっかけとして.日本精神科看護学会誌,45(1),60-63.
- 江上京里(2008).「気持ちいい」の次に何が起こるのか?. EB NURSING,8(4),420-427.
- 藤好未陶,筒井昭仁,埴岡隆(2003).新学習指導要領に対応した新しいスタイルの小学校歯

- 科保健学習の検討.口腔衛生学会雑誌,53(5),608-610.
- 濱治世,鈴木直人,濱保久(2001).感情心理学への招待—感情・情緒へのアプローチ.サイエンス社,1-10.
- 原久代,中山清美,安間美香(2006).術後患者への洗髪と意欲の関係についての研究.しょうけん 浜松労災病院学術年報,2005,129-131.
- 池田百合江,小西芳枝,加藤寛文(2004).精神科療養病棟における個人衛生に関するセルフケアを向上させるための取り組み 温泉入浴剤を用いた入浴への働きかけと効果.日本看護学会論文集 精神看護,35,229-231.
- 岩下 豊彦(1999).心理学, 金子書房,541-608.
- Jenkins,A.J.,Keenan,R.M.,&Henningfield,J.E.(2002).Correlation between pharmacological effects and plasma cocaine concentrations after smoked. *Journal of Analytical Toxicology*,26(7),382-392.
- 片岡弥生子,柴田秀子,谷口好美,他 (2002).看護現象に迫ろう!「悲嘆」の概念分析—Rodgers の概念分析を使って—.田代順子編.ナーシング・トゥデイ, 17(11),60-63.
- 鎌田正,米山虎太郎,著(2004).新漢語林.大修館書店.
- 上鶴重美ら(2002).わが国における看護共通言語体系構築に関する研究. 7月,2006,  
<http://icnp.umin.jp/~icnp/cgi-bin/search2.cgi>
- 加茂清美, 吉田多重子,杉本有里(2006).足部温罨法が腸蠕動に及ぼす影響 温罨法と足浴の比較検討より.日本看護学会論文集 看護総合,37,179-181.
- 金井一薫(1996).患者にとっての「安楽」とは,その本質と概念 "comfort"という言葉めぐって.総合看護,31(2),17-28.
- Katharine Y.K.(2003).Comfort theory and practice a vision for holistic health care and research. Springer Publishing Company.
- Katharine, Y.K., Raymond, J. K.(1991).An analysis of the concept of comfort. *Journal of Advanced Nursing*,16,1301-1310.
- 小森ひとみ,米田厚子,和田めぐみ,他 (2004).冠状動脈疾患集中治療室入室患者が「快」と感じたこと.日本看護学会論文集 成人看護 I,(34),70-72.
- 國廣哲彌,安井稔,堀内克明,他編(2006).プログレッシブ英和中辞典(第4版).小学館,2006.
- Mattison,A.M., Ross,M. W., &Wolfson,T.(2001).Circuit party attendance, club drug use, and unsafe sex in gay men.*Journal of Substance Abuse*,13(1-2),119-126.

- 松井栄一,編(2005).日本語新辞典.小学館,423.
- 松本晃子(2005).【在宅ケアの魅力 看護が生かせる最適の場】患者さんに「気持ちいい」と言われるケアを求めてがんばる日々.コミュニティケア,(67),18-19.
- 松村明,監(1995).大辞泉 小学館,665.
- 松村明,編(2006).大辞林.三省堂,626.
- Meston,C.M.,Buss,D.M.(2007).Why humans have sex. Archives of Sexual Behavior.36 (4),477-507.
- 水口奈緒美,岡田真佐恵,室川裕子,他 (2005).術後の血栓予防に間欠的加圧装置を使用した患者の快・不快に関する調査.整形外科看護,10(11),1083-1086.
- 森本眞寿代,伏原史恵,南里美貴,他(2007).産褥期にリフレクソロジーを導入してみた 施行後褥婦の反応からの一考察.佐賀母性衛生学会雑誌,10(1),51-54.
- 中島義明,安藤清志,子安増生,他編(1999).心理学辞典,有斐閣,144.
- 縄秀志(2006).看護実践における“comfort”の概念分析.聖路加看護学会誌,10(1),11-22.
- 縄秀志(2008).看護現象における「気持ちいい」は概念化が可能か?. EB NURSING, 8(4),412-418.
- 大場有紀子,工藤せい子,北宮千秋,他(2006).手浴が青年の心身へ及ぼす影響.看護技術,52(11),990-995.
- 小川捷之編集(1981).臨床心理用語事典 用語・人名篇,現代のエスプリ別冊.至文堂,55-56.
- 小倉永子,宗像倫子,鈴木桜子(2003).軽減しないしびれへの看護介入を考える ギラン・バレー症候群患者の看護満足度調査から.聖隷浜松病院医学雑誌,3(2),25-27.
- 岡浦真心子,岡崎厚子(2006).うつ状態回復期患者における臨床動作法の効果.日本看護学会論文集 精神看護,37,9-11.
- 太田聡子,古澤育恵,長岡沙織,他(2004).安価で有効な褥瘡予防マットの作成.全国自治体病院協議会雑誌,43(8),1136-1137.
- 大内隆,森田敏子(2006).苦痛や不安を伴う事例における「安楽」概念の分析.日本看護福祉学会誌,11(2),75-86.
- Rodgers,B,L.(2000).Concept analysis:An evolutionary view,In Rodgers,B,L.&Knafl,K,A (Eds), Concept development in nursing foundations,Techniques and Applications (second edition). W.B.Saunders,77-102.
- 酒井桂子,坂井恵子,坪本他喜子,他(2012).健康な女性に対するタクティールケアの生理

- 的・心理的効果.日本看護研究学会雑誌,35(1),145-152.
- 櫻井利江(2007).【経験いろいろ、研究いろいろ 温めるケア】 「ああ、気持ちいい」が満ちる病棟.ナーシング・トゥデイ,22(2),17.
- 佐居由美(2004 a).看護実践場面における「安楽」という用語の意味するもの.聖路加看護大学紀要,(30),1-9.
- 佐居由美(2004 b).看護における「安楽」の定義と特性. ヒューマン・ケア研究,5,71-82.
- 佐居由美(2005).和文献にみる「安楽」と英文献にみる「comfort」の比較 Rodgers の概念分析の方法を用いている日米 2 つの看護文献レビューから.聖路加看護大学紀要,31,1-7.
- 佐居由美(2008).看護師が実践している「安楽」モデルの検証.ヒューマン・ケア研究,9,30-42.
- 佐藤紀子(1998). 安楽 comfort について.看護技術,44(15),1603-1607.
- 佐山恵子,寺口和歌子,今淳子,他(2005).カラー装着している患者のスキンケア爽快感を得るために.黒石病院医誌,11(1),23-25.
- 高橋有希,中根直子(2005).【新しい Know-How を学ぶ これからの出産準備教室 妊婦に寄り添う「参加型」クラスのすすめかた】 出産準備教室.Knowledge 編.出産に向けて “チョー気持ちいい!” お産って?.ペリネイタルケア(2005 夏季増刊),175-177.
- 薄井坦子,兼松百合子,林滋子他編(1995).看護学学術用語.日本看護科学学会 第4期学術用語委員会,6-7.
- 山根幸恵,高梨妙子,岡本静香,他(1998).画一的なケアになっていませんか? 気持ちよいおむつ着用を考えて おむつ内温湿度からの一考察.臨床老年看護,6(1),74-80.
- 山崎京子,金栗美穂,無津呂さよ,他(1997).肺癌末期患者の“快なる状態”づくりへの援助 KOMI チャート上の“変化”と“役割”の項目に着目して.総合看護,32(3),52-67.
- 矢野理香,大橋久美子,菱沼典子(2008).「あー気持ちいい」を引き出す看護現象— 4 事例を通して. 菱沼典子編集. EB NURSING,8(4),12-18.
- 矢野理香,石本政恵,品地智子,他(2009).脳血管障害患者における手浴 7 事例の検討を通して. 日本看護技術学会誌,8(3),101-108.
- 渡邊敏郎,E.R.Skrzypczak,&p.Snowden(2003).新和英大辞典(第5版).研究社,710.

#### <第4章>

- Husserl,E(1958).現象学の理念.長谷川宏訳(1997).作品社.
- 伊藤和弘(1990).M.メルロ＝ポンティの現象学的アプローチ－「知覚」論を中心に－.看護研究,23(5),11-18.
- 木田元(1989).メルロポンティの思想,岩波書店,114,124-125,245.
- 木田元,野家啓一,村田純一(1994).現象学事典.弘文堂,238.
- 木田元(2008).現象学,岩波新書,31.
- King,M.Existential-phenomenological alternatives for psychology. Oxford University Press, 48-71.
- Marilyn,A.M.(1985).看護現象研究のための哲学的方法.M.Leininger.看護における質的研究.近藤潤子,伊藤和弘監訳(1997).医学書院,106-120.
- Merleau-Ponty,M.(1945 a). 知覚の現象学Ⅰ.竹内芳郎,小木貞考訳(1999).みすず書房,1-24.
- Merleau-Ponty,M.(1945 b). 知覚の現象学Ⅱ.竹内芳郎,木田元,宮本忠雄訳(2004).みすず書房,59.
- Merleau-Ponty,M.(1964). 眼と精神.滝浦静雄.木田元訳(2005).みすず書房,189.
- 南裕子編(2008).看護における研究.日本看護協会出版会,217.
- Oiler,B.(1993).Phenomenology:the method,in nursing research: A qualitative Perspective (Munhall&Oiler,B),National League for Nursing Press,126-128.
- Oiler,C(1982).The phenomenological approach in nursing research, Nursing Research, 31(3),178-181.
- Omery,A.(1983).Phenomenology: a method for nursing research, Advances in Nursing Science,5(2),49-63.
- 榊原哲也(2007).現象学とは何か 看護ケア理論における現象学的アプローチの理解のために.緩和ケア,17(5),386-390.
- 篠憲二(1980). 現象学の方法.木田元,滝浦静雄,立松弘孝,新田義弘編.講座・現象学①現象学の基本問題.弘文堂,340-369.
- Streubert,H.J.&Carpenter,D.R(1995).Qualitative Research in Nursing: Advancing the Human Imperative, Lippincott,35.
- 立松弘孝(1981). 現象学の方法.木田元,滝浦静雄,立松弘孝,新田義弘編.講座・現象学②現象学の基本問題.弘文堂,1-45.

## <第6章>

池川清子(1991).看護—生きられる世界の実践知.ゆみる出版.

川島みどり編(2011).触れる・癒やす・あいだをつなぐ手—TE-ARTE 学入門.看護の科学社.

Merleau-Ponty,M.(1945 a). 知覚の現象学Ⅰ.竹内芳郎,小木貞考訳(1999).みすず書房,110, 172,232,235,236,292-293.

Merleau-Ponty,M.(1945 b). 知覚の現象学Ⅱ.竹内芳郎,木田元,宮本忠雄訳(2004).みすず書房,315.

Merleau-Ponty,M.(1964 a).眼と精神.滝浦静雄.木田元訳(2005).みすず書房,189.

Merleau-Ponty,M.(1964 b).見えるものとみえないもの.滝浦静雄.木田元訳(2009).みすず書房,198.

西村ユミ(2001).語りかける身体—看護ケアの現象学.ゆみる出版.

西村ユミ(2007).交流する身体<ケア>を捉えなおす.日本放送出版協会.

坂部恵(1983).「ふれる」ことの哲学—人称的世界とその根底.岩波書店.

佐藤登美,西村ユミ編著(2014).“生きるからだ”に向き合う—身体論的看護の試み—.へるす出版.

高崎絹子(1993).看護援助の現象学.医学書院.

滝浦静雄(1997).手の現象学.看護技術,23(11),114-122.

鷺田清一(2008).メルロ=ポンティ—可逆性 (現代思想の冒険者たち).講談社,251.